



## 論 説



# 昭和八年の道路改良事業に就て

唐 澤 俊 樹

第六十二回帝國議會の協賛を得て施行する産業振興土木事業と第六十三回帝國議會の協賛を得て施行する農村振興土木事業の兩者が殆んど時を同じうして起興せられた多事なりし昭和七年を送り茲に昭和八年の新春を迎えるに方つて過ぎし年の事績を回顧し新しき年の事業に就て所信を述べることは將來益々多事なるべき道路行政に資する所亦尠からざるものあるを信ずる。況して昭和七年に起興せられた兩事業共に其の起興の時期が年度半ばからであつたため其の事績の全貌を現すのは實に昭和八年に入つてからであるに於てをやである。

産業振興土木事業は數年來の所謂不景氣が猶回春の機運に至らず經濟界は極度の萎微不振を續けるのみで各種の事業は凡て活動が不活潑となり延ては逐年増加しつつありし失業者が加速度的に増す等事態憂ふべきものがあるので地方産業の振興を圖り旁々失業者を救濟するの一方策とし

て總事業費五千二百九十五萬六千八百圓を以て起興せられたものであるが、其の中道路事業費は一  
千四百七十萬三千五百圓を以てする國直轄の國道改良事業と、二千三百六十三萬五千八百圓を以て  
する府縣道改良事業とで、合計事業費三千二百四十六萬三千五百圓に及び、産業振興土木事業費總額  
の六割以上を占むる大事業である。

此の産業振興土木事業は昭和七年六月第六十二議會の協賛を得るや直に事業に着手せられた。  
併しながら此の事業を以てしては引續く不景氣に生産物の價格下落のため困窮して居た農山漁村  
を甦すに足らず、日を逐て事態容易ならざるものあるに至つたので、之を救済し且つ其の自力更生の  
資を得しむると同時に、地方産業の開發に資するため現内閣は更に昭和七年度以降三ヶ年間に之等  
時局を匡救するの目的を以て各種の事業を起興することとなり、第六十三議會の協賛を得た、これが  
農村振興事業である。内務省所管の昭和七年度執行農村振興事業は土木事業、衛生施設、社會施設、等  
數種を擧げることが出来るが、就中土木事業は其の及ぶ範圍の廣汎事業費の鉅額なる點に於て他の  
事業より遙に頭地を抜いて居る。而して更に土木事業費中に就て見るに總事業費七千三百一萬五  
千圓の内道路改良事業費は五千五十九萬六千圓であつて、總土木事業費中の七割の多きを占め、是亦  
治水、港灣の兩事業を遙かに凌駕してゐる。

産業振興土木事業と言ひ、農村振興土木事業と言ひ、孰れも道路改良事業が大部分を占めてゐるこ  
とは道路本來の普遍性が、失業者の救済農村其の他の地方民に就勞機會を容易に與へ得る好條件も

あることながら、道路の改良事業が都鄙を分たず産業開發の使命を果す第一の必要條件であるが爲である。此の農村振興土木事業の最も特色あるものは、國直轄事業、府縣事業と共に町村土木事業を行ふことである。而して町村土木事業に就て見るも、事業費總額四千五百六萬圓中町村道改良事業費は三千六百六十萬六千圓の巨額を占めて居る。町村の起業に係る土木事業に對して國庫が補助金を交付することは災害復舊事業以外に其の例を見ない所で、しかも今回の事業費に對しては四分の三の高率の補助金を交付する、正に空前の大事業である。政府をして斯くあらしむるに至つた陰鬱な世相は固より望まじからざることであるが、産業振興、農村振興の兩事業が起さるゝに因つて、全國津々浦々まで行はれる道路改良事業は、永年の間地方財政の逼迫のため望んで得られなかつた地方道路の改良が實現せらるゝに至つたもので、これは地方産業開發のため洵に慶賀に堪えない。

昭和七年度の農村振興事業は七年八月第六十三議會の協賛を得てより始められたもので、爾後僅に半歲の間に此の大事業を完了することを要するため、地方に於ては府縣、町村當局者共に會てなき多忙を加へた、加之從來此の種の事業に經驗をさへ有たない邊陲の地に寧ろ多くの道路改良事業が起興せられたが爲、到底言ひ盡せぬ煩雜と多忙とが、一時に殺到したのである。併しながら永年待望の道路の改良事業に對する地方民の熱誠と、當局者各位の眞劍なる努力とが渾然融和して事業は着々進捗した。但し東北地方の如く早く雪が降り積つて作業期間の短い所は格別として、其の他の地方は十一月一杯は所謂農繁期で、其の期間に事業を開始することは、事業起興本旨に背き、地方民の就

勞機會を失はしむるものであるため、事業の着手を猶豫した地方も尠くない、それで十二月に入つて一時に活氣を呈し來り、今月は所謂舊歲暮月として就勞率は特に見るべきものがあるべく、全國殆んど一齊に急速度の進捗を見るから隨つて昭和七年度の事業の大部分は本年に入つてから完了する故に、本年は三月末迄に完了する七年度の事業と、次に述べる八年度の事業とか、引續いて完了し路政上空前の偉觀を呈すべく眞に紀念すべき年であると言はねばならぬ。

次に昭和八年度の事業を述べよう。一般經濟界の狀勢は今尙依然として好轉するに至らず世相亦平靜ならずして新春を迎え、農山漁村等地方民の窮迫せる状態は今尙匡救せらるゝに至らない爲、政府は既定方針に依つて豫算を計上し、引續き時局匡救事業を執行することになつた。而して右豫算の内内務省所管の土木事業は昭和七年度に行はれたものと同様、國直轄事業、府縣事業、町村事業の三種を起興するものであつて、即ち事業費總額三千七十九萬七千餘圓を以てする國直轄事業六千二百三萬九千餘圓を以てする府縣事業及五千九百九十二萬八千餘圓を以てする町村事業合計一億四千四百七十六萬五千餘圓を以てせられ、之に對する國費支出額は八千八百八十五萬三千餘圓に及ぶもので、既に本豫算案は舊臘開會せられたる第六十四議會の協賛を求むべく提案せられた。

此の豫算案に依る道路改良事業は一千五百八十七萬三千餘圓を以てする國直轄の國道改良事業三千萬圓を以てする府縣道路改良事業四千五百四十九萬五千餘圓を以てする町村道改良事業合計事業總額九千三百三十六萬九千餘圓に達し、何れも昭和七年度に於て行はれたる産業振興、農村振興兩

事業費の合計額よりも多額に計上せられてゐる。依之觀是。昭和八年度に於ては前年度の夫れに比して、より以上の道路改良事業が、全國普遍的に起興せられることは勿論である。其の效果は前年度行はれたる事業の成果と相俟つて、地方産業開發に裨益するところ尠からざるものあるは固く斷言し得る所で、我國路政のため一層欣快を覺ゆるものである。

今次の時局匡救事業が起興せられるや、地方に於て紛擾を惹起したことを二三見聞したが、その紛擾の原因たるや何れも部落又は地方的に自己の便益に資するため改良路線爭奪に端を發するもので、これは道路の改良を熱望する結果に外ならず、吾人は此の現象を見て一種の心強さをさえ感じるものである。

産業の開發文化の進展のために道路の改良が急務なることは既に都鄙限なく之を認めてゐる。しかも地方財政の逼迫は其の切實なる要求に應ずることを得ずして惱んでゐるのである。時局匡救事業は世相の急速なる好轉を見ざる限り昭和九年度に於ても引續き行はれるであらう。併しながら、此の三ヶ年間に行はれる道路改良事業も、曾て見ざる大事業にせよ、全國道路の總延長に比しては實に九牛の一毛に過ぎず、唯其の緒に就いてのみと言ふ外ないのであるから、引續いて此の種大規模の改良事業を施行することが特に緊要である。此の大事業を續行するためには官民一途相共に此の理想に邁進するの外ない。敢て大方の識者に懇へ、併せて地方各位に對し一層の精進を切望する。